

小城市立歴史資料館※中林梧竹記念館だより

文化財説明板の設置を行いました

教育委員会では「〜小城どこでんミュージアム〜 屋根のない博物館構想」に基づいて、市内各所に所在 する文化財などに順次説明板の設置を行っています。

令和元年度は、芦刈町の中溝区の宝泉寺と乙宮神社、小城駅の梧竹モニュメント像の計3カ所に説明板を設置しました。

近くにお寄りの際はぜひご覧ください。



▲中林梧竹の説明板

小城祗園の山挽行事を 小城市重要無形文化財に指定しました

鎌倉時代に千葉氏によって始められたと伝わる山挽行事は、江戸時代には先山・跡山の2台で執り行われていました。一時中断した時期をはさみ、明治時代には須賀神社の氏子や上町・中町・下町の町民によって3台の挽山で再興されました。挽山の製作方法や前夜祭での横町の浮立奉納など、他地域の祇園会では類例がない独自の姿で伝承され、小城を代表する夏祭りとなっています。



▲縄や葛(かずら)で組み上げられた下町の山鉾

おぎの歴史繁探検隊

(ましる 神代家と芦刈町〈その1〉

天正14 (1586) 年、 神代家良が芦刈に入部 し、その城はのち豊臣秀

吉の朱印状に「肥前七城」の一つ「芦ヶ里城」(芦刈城)と記されました。今の芦刈町小路の芦溝農村公園一帯です。さて秀吉が九州入りした時、島津に降参した九州中の大名小名が秀吉のもとに駆け付けて独立を認められました。芦刈の神代家臣らも小倉にはせ参じて独立しようと主張しました。しかし、鍋島直茂と通じた内からの妨害もあり、結局、神代家良は秀吉の元にはせ参じる事ができず、独立の機会は失われました。神代家は鍋島本藩の親類格四家の一つで本藩家老を兼ね、さらには本藩の藩主を何人も出しました。本藩の跡継ぎが絶えた時に藩主を出せるのは神代家だけという特別な家格だったのです。さらには支藩の蓮池藩主をも出しました。神代家が川

morphism make propriessed, etc. morphism in programment programment in the morphism in the control of the programment in the control of the c

久保に移ったのは 直接の時代と考えられ、70年から100年は 芦刈の陣屋 (一国一城の令の後、城は破却され石高により 陣屋がおかれました) に本拠をおいていました。 地名として面白いのは、御小路、御蔵道、御米津の「御」がつく三地名がみな神代関連であることです。 城跡の字名は今も神代であり、川久保などの地名も残ります。(続)

小城郷土史研究会/著



▲現在の芦溝農村公園周辺(芦刈町小路)

one die 19 maart 19 1 maart 20 Die derem bestellt die derem begroon die derem begroon die derem bestellt 20 maart 20 maart 20 maart 20 maart 2

◇開館時間 9時~17時 ※休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館 2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132